

**凡例**

建物全壊率	
0～3%未満の区域	7%以上～10%未満の区域
3%以上～5%未満の区域	10%以上～20%未満の区域
5%以上～7%未満の区域	20%以上の区域

緊急輸送道路  
緊急輸送道路とは、国道路、主要幹線道路、市道に選定された道路、緊急輸送物資の運搬に必要と認められる道路を指し、道路幅員が10m以上の道路を指す。道路幅員が10m未満の道路は、緊急輸送物資の運搬に必要と認められる道路を指す。

その他の幹線道路

市役所  
 防災拠点

0 1km 2km

ここで表示した危険度(建物全壊率)は、「揺れやすさマップ」に示されている想定地震の揺れの強さにした場合、建物ごとの経路の被害が生じるかも50mメッシュごとに評価し、建物全壊率の分布を概材的に示したものです。

# 古河市地震防災マップ

## 地域の危険度マップ

古河市では、今後発生する可能性のある地震について市民の関心と知識を持っていただき、日頃からの備えをしていただくことを考え、「地震防災マップ」を作成しました。

### 危険度マップとは

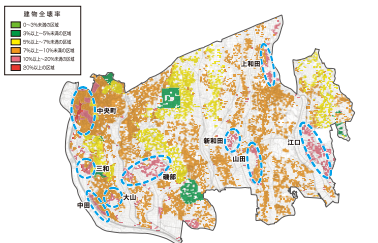
「危険度マップ」とは、「これぞ古河マップ」に示されている指定地震の揺れの強さになった場合に、建物に被害が生じる程度を「危険度」として表したものです。計画的に約50m四方のメッシュ「単位区画」別の地域内の建物の分布を参考に、建物被害の分布を相対的に示しています。危険度の数値が大きくなるほど被害は大きくなります。これは現状が前提のためよく行くところ、よく遊ぶところなどについて、安全性を考慮してみてください。なお、このマップは「建物」が存在するメッシュのみを色分けしており、建物がないメッシュには着色していません。

### 建物危険度(全壊率分布)の概要

全壊の危険性がある建物には、建築年が古い(昭和56年以前)未造住宅で耐震性が不足するものが多く、これらの高危険地区では全壊の危険度が高くなります。古河市内の未造住宅のうち、昭和56年以前に建築されたものは約41%で半分を占めています。古河市を想定した地震動において、3階以上及び10~20%程度の全壊率を想定して建物全体の危険度が高いメッシュが集中している地区は、要員期間の左半分に位置する中央部、三和等、及び右端部の右半分に位置する中部、大山等です。10~20%及び7~10%程度の全壊率で危険度が高い地区は、磯部、新和南、山田、江口、三和田等となっています。

地震防災マップに関するお問い合わせ先 **建築指導課** ▶ 306-0198 茨城県古河市仁連2065  
TEL:0280-70-1511 FAX:0280-70-1544

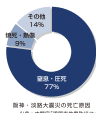
### 建物全壊の危険度が高い地区



### 耐震化の重要性

#### 地震による死亡・ケガの原因は?

阪神・淡路大震災の死者のうちの約8割は地震直後の家具、建物による圧死といわれています。



皆さんの生命や財産を守るためには、住宅・建築物の耐震化が極めて重要です。

### 被災した建物例



耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。目立った症例が無くても、耐震診断を受けることが重要です。

次のような項目に心当たりがある住宅は、特に要注意です。

- ① ドアあるいは窓を開けたとき、柱と天井との間に歪しい長長の三角形の隙間がある。
- ② ドアの数は窓の付け方が悪く、建具の関節が歪形のために思よりよいかない。
- ③ 窓の隙間が歪しく水平を欠いている。
- ④ 窓の開口が斜斜しているのが、腐っていても感じる。
- ⑤ シロアリや成虫(4枚羽根のついたシロアリ)が浴室から飛び出す。
- ⑥ 屋根の棟あるいは軒先が反っている。
- ⑦ モルタル塗壁に長い斜めひび割れが入っている。

### 耐震診断について

#### 住宅の耐震性について

一般に、被害が発生した場合の建物の被害率は古い建物ほど高くなりますが、未造住宅はその傾向が特に目立ちます。古い建物の被害率(昭和56年以前)は、新築に比べて約2倍に達したため、見落としがちなことが懸念されています。心細いものがあるのは住宅にまで耐震診断が普及するにつれて、被害を軽減させることが期待されています。

#### 耐震診断とは

住まいの耐震性がどの程度か調べる「耐震診断」、いわば入居の「健康診断」。地域の状況や基礎の状態、土質調査として、家の構造や土質、居住者の状況、居住者の状況、土質調査は評価された上で、耐震診断の必要性があるかを判断します。「耐震診断」には、一般の方が自己診断できる「誰でもできる」(簡易診断)と、建築士などの専門家が行う「一級診断」と「二級診断」があります。

### 地震発生時の心構え/行動のポイント

経過時間	ポイント
地震発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>●揺れが起きたら床は1分間</li> <li>●家具、身を守る</li> <li>●揺れが止まらないうちに外へ逃げ出す。</li> <li>●揺れが止まらないうちに外へ逃げ出す。</li> <li>●揺れが止まらないうちに外へ逃げ出す。</li> <li>●揺れが止まらないうちに外へ逃げ出す。</li> </ul>
発生 1~2分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●揺れが止まったらまず次の検査</li> <li>●火元を確認する</li> <li>●火元を確認する</li> <li>●火元を確認する</li> <li>●火元を確認する</li> <li>●火元を確認する</li> </ul>
発生 3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近隣の安全確認</li> <li>●近隣の安全確認</li> <li>●近隣の安全確認</li> <li>●近隣の安全確認</li> <li>●近隣の安全確認</li> </ul>
発生 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラジオなどで正しい情報入手</li> <li>●ラジオなどで正しい情報入手</li> <li>●ラジオなどで正しい情報入手</li> <li>●ラジオなどで正しい情報入手</li> <li>●ラジオなどで正しい情報入手</li> </ul>
発生10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>●協力して消火 救出、避難誘導</li> <li>●協力して消火 救出、避難誘導</li> <li>●協力して消火 救出、避難誘導</li> <li>●協力して消火 救出、避難誘導</li> <li>●協力して消火 救出、避難誘導</li> </ul>
発生1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発生1時間</li> <li>●発生1時間</li> <li>●発生1時間</li> <li>●発生1時間</li> <li>●発生1時間</li> </ul>
発生3日(5日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発生3日(5日)</li> <li>●発生3日(5日)</li> <li>●発生3日(5日)</li> <li>●発生3日(5日)</li> <li>●発生3日(5日)</li> </ul>

### 危険度マップの作成手順

「地域の危険度マップ」は、「これぞ古河マップ」の震度分布と構造別・建築年別建物の現状からメッシュの震度に応じた建物被害率を算出し、その結果を適度に区分して、危険度を相対的に示す「建物被害危険度」として表示することによって作成されています。

